

今、家庭を考える

4月からNHKの朝の連続テレビ小説（月～土曜：am8:15～8:30）で、「瞳」が放映されています。東京月島を舞台とするホームドラマです。そこでは里親制度が扱われており、主人公一本木瞳が里親として悪戦苦闘しています。里子に出される子供たちは、親の自殺・蒸発、家庭内暴力、親の離婚等々、両親が子供たちを育てられなくなった結果、里子となり、里親のもとで育てられていきます。一本木家に預けられている里子たちは、それぞれ心に大きな傷を抱えつつも、一本木家で家族を形成し、成長していく姿が描かれています。

しかし、実社会に目を向けてみますと、この様に里子に出され、幸せに育てられる子供たちばかりではありません。親が子供を・子供が親を殺し、傷つける事件が毎日のように報じられています。また、家庭が完全に崩壊し、家族がバラバラにならないまでも、家庭内に問題を抱え、結果としてアダルト・チルドレンとなる子供たちが増えていることも、現実として受け止めなければなりません。

父親がおり、母親がおり、子供たちがいる、そうしたいわば普通で当たり前の家族であれば、それは非常に恵まれているのです。

今回、教会では、家庭崩壊について、また家庭形成について、聖書がどの様に語っているかを聞き、一緒に考えていきたいと願っています。集会はキリスト教の礼拝形式で行われますが、誰でも出席できますので、気軽にお越しください。

大垣教会牧師 辻 幸宏

アダルト・チルドレン (adult children) ブルタニカ国際百科事典より

本来はアルコール依存症の親に育てられた子供が、自己の抑制を余儀なくされた結果、自我の健全な発達が阻害され、何らかの心的外傷（トラウマ）をかかえたまま成人した状態を表す。・・・今日では広義に、両親の離婚や親による虐待など、いわゆる機能不全に陥った環境の中で育った者も含める。感情を抑圧したまま育った結果、成人しても自分に自身もてず、他人に懐疑的になり、ひどい場合には自分自身も子供に対してかつての親と同様の態度をとったりする。アメリカのクリントン元大統領が自分もアダルト・チルドレンだったと告白し話題になった。